

知事との県民対話集会（天龍村）概要

- ・開催日時 令和5年10月12日（木） 午後2時30分から午後4時まで
- ・会場 天龍村老人福祉センター 大集会室
- ・参加者 県民40名、永嶺天龍村長、阿部知事、丹羽南信州地域振興局長
- ・テーマ 高齢化社会におけるモデル自治体になるために

【参加者】

- ・当村は、少子高齢化が顕著で高齢化率も県下で最も高くなっている。また、今後も人口は減少傾向にあると推測される。住み慣れた地域で安心して生活ができるよう、村民の理解と村政の協力を仰ぎながら社会福祉協議会の事業に取り組んでいるが、職員の確保が課題である。
- ・広告や人材紹介、人材派遣などあらゆる面から募集をかけているが、専門職など不足しているのが現状である。モデル自治体となるためには人材確保は不可欠であるため、支援をお願いしたい。

【知事】

- ・様々な分野において人材不足は課題と認識している。人材の確保は県も最優先課題として取り組もうと考えている。
- ・介護については、国の制度の枠の中でお金が回っている仕組みであるため、国が介護全般に対する国の財政負担や介護報酬・介護制度のあり方というものをしっかり考えてもらうことが基本的には重要だと考える。ただし、県も方策を考えなければならないと感じている。
- ・日本は専門職に対し、処遇面で弱いのではないかと思う。納税している皆さんの意見を反映しなければならないが、どちらかというところ、そういう方々にしっかりした賃金を支払い、その代わり介護などを安心して受けられる社会にしていくことが重要だと思う。国に対してもそういう方向性で要望していきたいと思うし、個別の地域の課題は一緒に考えていきたい。

【参加者】

- ・村出身の夫とともに子育てをしている。村の小学校では、村ならではの様々な行事で年配の方々と接する機会がある。村の文化を大事にすることや高齢者の方々にいろいろと教えていただくという経験は、ふるさとに対する愛着心を育てることになると思う。
- ・高齢者も子どもたちと接することで元気になれると言って聞いている。今後も、小中学校でそうした行事を大事にしていってもらえたらと思う。
- ・村で活動する地域おこし協力隊の皆さんも、村の年配の方からいろいろと教えてもらいながら、それを引き継ぎ、活動やイベントをしている。村で子育てする元協力隊の人もおり、高齢者の方々と関わりを持ち、外から来た人が村を盛り上げて聞いている。引き続き協力隊の皆さんを通して、村と縁を持っていただけの人が増えればよいと思う。
- ・また、村は病院が遠かったり、村内の移動も車がないと不便であったり、年を重ねると生活面においての不安も増えてくる。そうした不安が解消されて、安心して元気に生活できる村になっていくために、生活支援コーディネーターのような方が必要であると思う。

【参加者】

- ・以前は地域おこし協力隊員として活動し、現在は結婚し、4人の子どもを育てている。高齢化率の高い村だが、私たちのことを家族のように思ってくれる村民の方々のおかげで、とてもよい環境で子育てができている。
- ・小中学校で地域の方から教わる授業があり、よいことだと感じるので続けてほしい。できれば授業以外に、もっと自然な形で多世代が交流できる場があるとよいと思う。県内に好事例があれば教えていただきたい。
- ・知事が考える長野県が目指していきたい理想の教育を教えていただきたい。県内で移住が増えている理由として、魅力的な教育環境が挙げられる。大日向小中学校や風越学園などの例が有名と思われるが、他の地域に広がってっていないのではと感じる。私はとても興味をもっているが、知事はどう考えるか教えていただければと思う。

【知事】

・地域おこし協力隊員や村外から来る方が地域のコミュニティにしっかりコミットして一緒に地域づくりをすることが大事であると思う。県内の市町村を回ってきた中で、地域の外から来た人がうまくいっているのは、辰野町であると感じている。ポイントは2つあり、1つは、家族のように温かく迎えてくれるということ。この点について長野県はどこでもそうであると感じる。もう1つは、対等に接してくれるということ。辰野町では町外から来る若い人たちに地域のことを一緒に考えさせてくれるということをやっていた。

・地域生活を支えていく上で、天龍村がモデルになるためには、他の地域と同じことをやってもいけないと思う。1つの分野だけでは物事は解決できないと思う。教育は教育だけを考えるのではなく、教育と産業のつながりを考えることなど、様々な分野が横でつながることが、高齢化社会を乗り切ることに必要なことであると考えている。

・理想の教育については、信州学び円卓会議で教育改革について議論を始めているが、これから選ばれる地域になるためには、教育と医療が大事であると思う。教育については、少人数の学びが求められているため、県内の町や村における教育はいろいろな可能性があると思う。県内で全国から注目されるのは、大日向小中学校や風越学園などの私立の学校なので、公立学校も全国的に先駆的な取組をしていかなければと考えている。

・信州学び円卓会議での目標は、個別最適な学びの実現である。それから、会議で出た大きな方向性は、学校の自治をもっと充実させようということ。先生方を地域が支えるのに合わせて、地域の皆さんが一緒になって学校運営のあり方を考えるような形であり、先生方が主体的にいきいきと活動できるような学校にしていきたいと考えている。

【参加者】

・天龍農林業公社という村が100%出資して設立した会社がある。設立の目的は、高齢化社会にふさわしいものになっているが、全ての面でパワー不足であり、十分機能していないと考えている。

・会社の機能を拡大し、目的達成に向け推進していけば、高齢化社会のモデルになるのではと考える。担い手不足の解消など様々な面で県の支援をお願いしたいと思う。

【参加者】

・2018年に地域おこし協力隊で天龍村に来て、中井侍銘茶の栽培等をしている。他の地域では、お茶では生計が立てられないことなどでどんどん人が辞めていく中で、天龍村は緩やかにバトンが渡っているのではないかと感じている。地区の方が寛大な心で対等に接してくれており、日々の生活に満足していることが感じられ、この村にはいきがいをもって生活している高齢の方が多いと感じている。

・沖縄との交流提携について、私は春から秋までは長野で農業に携わり、冬から春までは沖縄県の農家で住み込みの仕事をしている。長野と沖縄は歴史背景や文化は全く違うが、すごく似ている部分があると思う。沖縄では大宜味村という村で仕事をしているが、健康長寿の村で、今、IKIGAI（いきがい）という外国の方が書いた本が世界的に売れており、その内容は、大宜味村の人はなぜこんなに長生きなのかを聞き取った結果、みんながいきがいをかって生活しているからというもの。天龍村も似ていると思い、私が関わっている天龍村の方や中井侍の方はいきがいをかって暮らしているなと感じている。長野と沖縄で健康長寿の方々がお互いに交流していけたらよいと思う。

【知事】

・担い手不足がどこでも顕在化しているため、県としても農林業の担い手をどう確保するかということは重要な課題である。天龍村は温かく迎えてくれる場所だと思うので、そういう魅力を発信していくことが大事であると思う。そこは我々も一緒に考えたい。

・全国過疎地域連盟の会長を務めており、いろいろなところでお勧めしてもらっているのは特定地域づくり事業協同組合制度である。これは、まさに一人多役を実現するもので、そういう組合をつくってもらうと一定程度の財政措置があり、農業、林業、観光業など複数の仕事について、全体でバランスを取って働いてもらえるような仕組みがあるので一緒に考えてもらえればありがたいと思う。

・いきがいの話については、もったいないに続いて世界に発信する言葉ではないかとお聞きしていた。

・沖縄県と友好提携を結び、いろいろな形で交流しようと思っているが、一つは健康長寿を考えている。かつて日本一長寿であった沖縄県と健康長寿を研究するという話もあるので、いきがいという観点を含めて考えるようにしたいと思う。

【参加者】

- ・ていざなすを生産している。組合には70、80代の方が多く、その方々が、伝統野菜ということでいきがいを感じて毎日農業に携わっている。
- ・天龍村は、比較的農業が盛んであり、伝統野菜の維持もうまくいっているが、他の市町村の伝統野菜は、今は下火の所もたくさんある。そういうところを県でも押し上げてほしいと思う。
- ・リニアが開通するに当たって、南信州に伝統野菜を食べに来たいという思いを飲食業者と県と一緒に、賛同してくれる人と取り組んでいる。そういう団体を立ち上げたときに県の支援をお願いしたいと考えている。

【知事】

- ・伝統野菜は、県としても振興していかないといけないが、農政部が生産面だけに着目して応援していただくだけでは弱いと思うので、観光業や商品開発を含めて考えれば食品製造業との連携など、幅広く考える必要があると思っている。
- ・南信州地域は、リニア時代に向けて大きく変わっていかないといけないが、その一方で、これまでの歴史や文化を残していかなければならない。まさに伝統野菜はこれからも未来に引き継いでいかないといけない貴重な財産であると考えている。リニア時代の南信州地域のあり方を考える中でしっかり位置付けられればよいと思う。

【参加者】

- ・第一次産業を中心に考えても厳しい状況にある。人口も昔に比べれば減少しているが、本村を忘れないようにお願いしたい。

【知事】

- ・知事として天龍村の皆様と一緒に歩んでいきたい。若い人たちも住み着いて活躍しており、いきがいの多い地域ではという話もあったため、よいところがたくさんある村であると思う。皆さんと前向きな議論をしながら県も一緒に未来をつくっていききたいと思う。

【参加者】

- ・柚餅子や味噌、五平餅が緩やかに引き継がれており、よい流れができていると思う。いきがいというよいキーワードも出た。多世代が混ざりながら、皆でいきがいをシェアできるような村づくりができ、うまく周りに発信していくことがよいと思う。

【知事】

- ・シニア世代、中堅世代、若い世代が協力し合っている地域であると感じるので、こうしたよさをこれからもっと発揮していってほしいと思う。我々も行政的な課題に向き合いながら取り組んでいきたい。